

病防第69号
平成21年8月6日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イチゴのうどんこ病およびハダニ類の発生状況（技術情報第8号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

県内イチゴ産地の育苗ほ場で、うどんこ病およびハダニ類が多発傾向にあります。両病虫害を、本ほに持ち込まないように、今後の発生に注意し、防除対策を徹底しましょう。

1 発生状況

(1)うどんこ病

ア 県内主要イチゴ産地におけるうどんこ病の発生は、6月の巡回調査で発病株率3.3%（平年9.1%）とやや低かったが、7月には同13.3%（平年3.2%）と増加し、平年および昨年より高かった。

イ 病虫害防除員の6・7月の報告では、平年比多～やや多であった。

ウ 盛夏期に入ると菌そうが消失し目立たなくなるが、菌は潜在感染の状態にある。7月までの発生が多かったことから、潜在感染率が高く、9月以降も多発傾向が続くと考えられる。

(2)ハダニ類

ア 県内主要イチゴ産地におけるハダニ類の発生は、6月の巡回調査で寄生葉率32.0%（平年12%）と高かった。7月の巡回調査でも同15.0%（平年4.9%）と高い水準が維持された。

イ 病虫害防除員の7月の報告では、平年比やや多であった。

ウ 8月の気温と降水量は平年並でハダニの増殖に適しており、現在の水準が継続すると考えられる。

2 防除対策

(1)うどんこ病

ア 9月以降の伝染源を少なくするため、発病葉や潜在感染している可能性のある不要な下葉などを取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。

イ 盛夏期には病勢進展が抑制されるため、定期的に予防防除を行い、新葉への感染を防ぐ。

ウ 葉裏に発生するため、薬剤は葉裏に十分かかるように散布する。

エ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の違う薬剤のローテーション使用を行う。

(2)ハダニ類

ア 発生初期は下葉に寄生している。下葉かぎを行うことで、寄生葉が除去されるうえ、薬剤もかかりやすくなる。取り除いた下葉は、ほ場外に持ち出して処分する。

イ イチゴのナミハダニは薬剤によって感受性が異なるため、平成21年7月17日付技術情報第5号(http://www.jpjn.ne.jp/kumamoto/H21/yosatsu/gi_jyutu090717.pdf)等を参考に、薬剤防除の計画を立てる。

ウ 葉裏に多く寄生しているため、薬剤は葉裏に十分かかるように散布する。

エ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の違う薬剤のローテーション使用を行う。

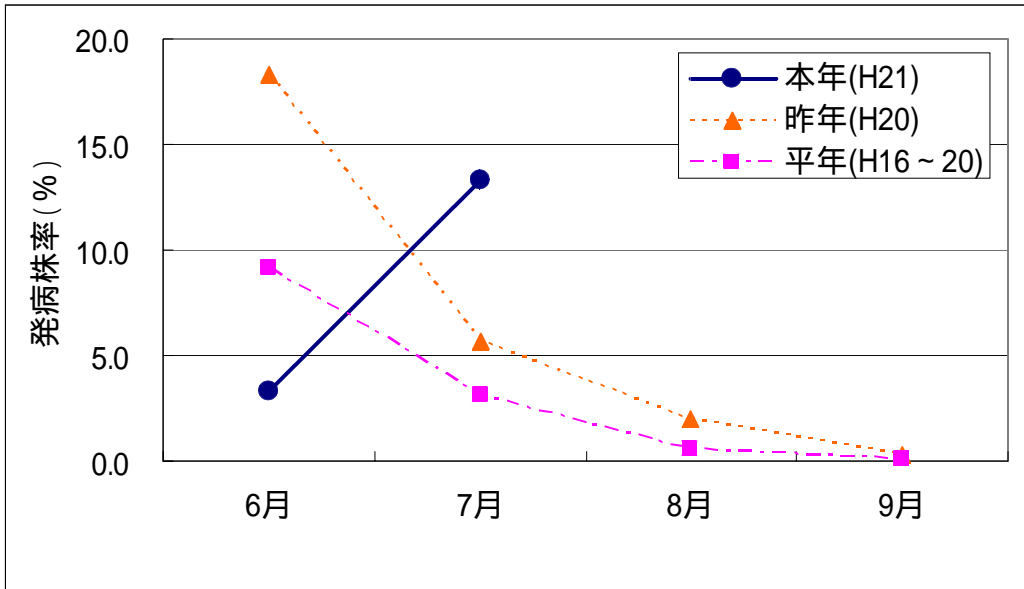


図1 巡回調査におけるうどんこ病の発病株率

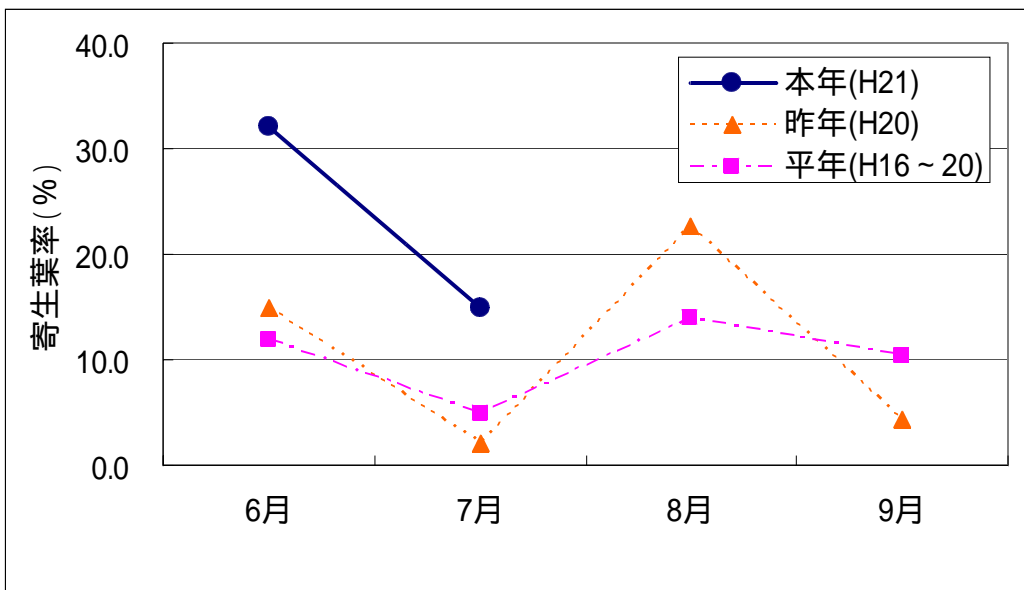


図2 巡回調査におけるハダニ類の寄生葉率

なお、本文はホームページ「<http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/>」上に掲載しています。

熊本県農業研究センター
 生産環境研究所 病害虫研究室
 担当：東
 TEL : 096-248-6490 FAX : 096-248-6493